

# 埼玉アートシアター 通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS



SAITAMA ARTS FOUNDATION  
(財)埼玉県芸術文化振興財団

# 8

2007.3-4

【蜷川幸雄公開対談 NINAGAWA 千の目】  
原田 隆  
（財）埼玉県芸術文化振興財団 芸術監督・演出家

宮本亜門 × 蜷川幸雄



# CORIOLANUS

ロンドン公演 2007.4.25 ~ 29 (bite-barbican international theatre event)

2007.3-4 S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

# AMON MIYAMOTO

宮本 亜門



公開対談シリーズ第7回

NINAGAWA 千の目

第7回の「千の目」は演出家の宮本亜門さんが登場。共に海外でも活躍する演出家同士という組み合わせは、とてもエキサイティング。普段、共に仕事をする機会のないだけに、とにかく互いに聞いてみたい話が尽きない。欧米での仕事のやり方の違いから死生観やおたく語まで、本音で語った対談は、鋭いつっこみ満載の刺激的なものとなった。

蜷川 幸雄

# YUKIO NINAGAWA

## まずディスカッションが、欧米では仕事の基本

**蜷川 (以下N)** 「NINAGAWA 千の目」シリーズ、第7回のゲストは宮本亜門さんです。ブロードウェイで日本人として初めて演出した演出家で、言ってみれば僕のライバルです。宮本亜門さんです。(拍手) ここに来るのが嫌だったでしょう。

**宮本 (以降M)** その通りです。はじめの紹介でライバルとか言わないで下さいよ。ホントやりづらいですよ。演出家って怖いんですね。

**N** ニューヨークで『太平洋序曲』を演出しましたよね。もちろんアメリカ人の俳優さんでしょ。どうでした？

**M** とにかく稽古時間が3週間以内で短かったんで、「これは間に合わないのではないか」という恐怖感があって、まず稽古の最初の1週間ぐらいは「はい、始めましょう。一番上のここから……」と動きをどんどんつけていったら、5日後ぐらいから彼らが完全にフラストレーションを抱えているのが分かって「ヤバイ」と思ったのです。つまり「あなたに動かされる駒ではない」と。舞台監督に「亜門、ちょっとやり方が違うのではないの」と言われ、「ああそうか」と気づきましたね。自分が焦っていたんです。

その後からは稽古はまず話し合いからで、「僕はこのシーンをこうしたいがどう思う」という事をディスカッションして、その後動きについて「僕はこう思う」と言ってやっていくようにしました。

**N** イギリスでは稽古の始め方からディスカッションした。日本では手をたたいて始めるが、イギリスでは「では、始めましょうか。あなた達がいい時に始めて下さい」と言われて自然に始まります。「どっちにしようか」とみんなでディスカッションした結果、「僕らは蜷川のやり方でやってみよう」と決まった。亜門さんもディスカッションをしたとおっしゃったが、その通りなんだよね。

**M** ですね。

**N** もう、理屈ばかり言っているでしょう。うるさいでしょう。

**M** そう、うるさい。僕は日本に帰ってきて、本当に日本人ってなんて静かな、なんてよく言うことを聞いてくれるのかと思えました。

**N** 外国から来た演出家が日本で仕事をしがたのが分かるよね。日本人である亜門が自分達の土俵でない所でやる大変さはありませんか？

**M** あると思って行ったらそれほどなかった。初めて稽古場に来てみんなと顔合わせがあって、もっと演出家らしい言葉を「この作品は、こうでこうで」としゃべろうと思っただけで、結局みんなの前に立った時に自分の意思とは関係なく言い始めてしまったのです。みんなのニコッとした顔が見たくなくて、「(英語で)僕は(猿のマンガの)キュリアス・ジョージに似てるって言われてるんだけど」と言うとみんなが笑って……。

**N** ばかじゃない。

**M** そう、ばかなんです。まずばかを出すんです。ばかを見せてその後みんながワーツと言った時に、「実は僕がやりたいのは、こうでこうで……」と言う時にすごい幸せを感じるタイプなんですよ。

**N** 利口に見えるように、値打ちを高くするためにまず落としてみせるんだ。

**M** そんな計画的ではなく、なにカスイッチが入ってしまうんです。僕は喫茶店の息子で、サービス業で父も母も生きてきて、「いらっしゃいませ」と言う時の笑顔が好きで幸せになるタイプなんです。

本当に蜷川さんがいらっしゃったことによって、何百回、人に「灰皿を投げないのですか?」と聞かれました。その度に、「俺はこの童顔だし、演出家にはなれないな」というコンプレックスがあったんですよ。

**N** 可愛いと言うことだな。

**M** そう。(笑い) だって、蜷川さんと比べたら……ね。(笑い)

蜷川さんのお蔭で笑顔が好きなのは演出家になれないのになって、ずっとコンプレックスがありました。

**N** 俺はコンプレックスはなかったと思うが、お互いに演劇界において、少し孤立している所があるよね。

**M** この前蜷川さんが「僕は演劇をやっていく上でいろいろな人と戦いながら革

命をしてきた。それは色でいうとモノクロ、白と黒でぶつかってきた。お前のむかつく所は七色でぶつかっている所だよな」とおっしゃいましたよね。

**N** うらやましいんだな。

## NINAGAWAもソンドハイムも いい意味でのおたく

**M** 蜷川さんの舞台をずっと拝見していて、本当に日本の演劇界の中で見事に孤立し、自分の道を進み、それがいま世界になり、もっとも最大級の演出家にまでなったというのはすごいですよな。

**N** 最大級までもうちょっとなのですか。

**M** 何が最大級ですか。  
**N** 前はそういうことにちょっと興味があったが、この頃はぼけ老人でどうでもよくなった。

**M** いつから? ぼけが、ではなくて、どうでもよくなったのはいつからですか?

**N** ここ2年ぐらい。言ってみれば俺は「おたく」なんだと思うんだよ。演劇おたく。今(1月時点)、昼間は『コロオレイナス』の稽古をやり、午後3時過ぎから「ひばり」の稽古と2つやらせてもらっていて、みんなが「大変でしょう」というが、自分では苦ではないわけで、いってみれば「カツ丼を食った」「こんどは天井だ」という感じなんだよ。

**M** すばらしい。

**N** そのことだけに興味があるんだよ。演出家としてのそびえ立つような権力が欲しいとか、演劇の賞が欲しいとかは別にないし、だいたいもらったし。

**M** 何かむかつく。(笑い) 僕はもらっていないんですから。

**N** もらえないの。

**M** あまりもらえないタイプなんです。「おたく」で思いついたけど、僕がブロードウェイでやった『太平洋序曲』の作曲もした、僕の大好きなステイブン・ソンドハイムという70歳半ばの作曲家も「おたく」です。結局ほかのブロードウェイの作曲家とかもそうだけど、彼らは人間的にいい意味でおたくで、もうなにかに夢中になって

## 宮本亜門は埼玉で人気があるんだ。 この劇場でやってくれよ。



のすごくなるさかっただけ、その大変さはすごく分かる。

**M** アメリカはバトンを引張る人はバトンしかさわらない。この人にはこのお金が払われていて、ここでというように恐ろしい分担作業が出来ているので、それをどうやるかですよ。正直に言うと、何回も愕然とさせられました。

**N** 自分の領域を越えてはやってられないよね。ある仕事の時に怒ったら、向こうの責任者が何人か残って手伝ってくれました。時には議論を激しく戦わせなくてはダメな時もありますね。

**M** それは、イギリス人たちの役者に対しても日本人と接し方は同じですか。何か自分の中で変えることはあるのですか。

**N** あるよ。まずディスカッションをやるということを感じなければならぬです。例えば、彩の国さいたま芸術劇場でやった『リア王』で、ナイジェル・ホーソンは稽古が始まると必ず、「蜷川、5分時間をくれ」と言う。「ちょっと幕開きの演技について考えたのだけれど……」とまず意見を言って、妻が最近死んだ老人としてやってみたいと言う。僕は「どっちでもいいよ」と正直思っているが、「ああ、そうかその可能性はあるね。やってみようか」とやってみるがうまくいかない。その日はその通りにやって、翌日また、「蜷川、5分くれ」ともう2週間ぐらいオープニングが自分でも気に入らなくて、「この人はこうやって作っているのだからそれに立ち会うよりしょうがないなあ」と思うようにしました。

**M** 日本人でそうやってきたらどうします。  
**N** 「もう、決めよう」という感じ。(笑い)つまり、日本人には暗黙の了解があるからそれで通用するのだけれど、イギリス人とはそれが有り得ないから徹底的に話し合うより仕方がないのです。それにはものすごく時間を食うが、他者と他者が会おうためにはそのくらいの苦労は当然、キャリア

をきちっと全うしなくてはいけない人たちは仕事に真剣なわけで、だからお互いにちゃんと話し合う。それを全員についてやらなければならないのが、日本でやる時とは一番違う。けれど外国で仕事をすることで、他者と出会うためにより丁寧にやることに僕は自覚的になったかな。物などをぶつけていたら関係が壊れてしまう。

**M** それをやって、今度、日本の役者とやった時に日本の役者に対して思うことはありますか。

**N** もうちょっと論理的に突きつめて欲しいと思います。そのことを抜きにして欲しいぶんやってきているから。だから役者に言うよ。「今はきちっと戯曲を分析しろ。あなたはここに登場する何分前にどこにいて何を、何をしゃべっていたのだ。その続きでここに出てこい」と。

**M** 一応僕はそのことをやっていますけれど。

**N** やっているんだ。ではオーソドックスにやっているんだ。

**M** 案外古典的なんですよ。

**N** そうだね。そうではないと思った。

**M** どんなふうに演出しているかと思っていたのですか。

**N** もっと感覚で。  
**M** 絶対そうではないかと思ったんだよね。この前蜷川さんの衣裳も担当している前田文子さんと一緒にの時に、文子さんから「蜷川さんが稽古場で「俺は亜門みたいに転換だけうまくないから」と言ってた」と聞きました。(笑い)

### 死より、自分のジャッジが狂うことの方が心配

**N** 次の作品は準備している？  
**M** 今年はタン・ドゥン のオペラ『TEA』を、アメリカのサンタフェで上演します。  
**N** それは新しい作品なんだね。  
**M** そうです。現代オペラです。ジャンル



を越えるのが好きなんです。蜷川さんは最近の作品数は異常ですよ。これはどうして？

**N** 一つ死んでも大丈夫なように、やりたいことをやるんだよ。

**M** 蜷川さんに聞きたいのは、今、死というものに対してはどう思っていますか。

**N** それは来たらしょうがないと思っています。イギリスのナショナルシアターで「近松心中物語」をやっている時に、胃潰瘍で2週間ぐらい物を食べられなくて吐きっぱなしで、ホテルに寝ていて真っ暗にしていると、寝ている自分の姿が何となく浮かんでいて。そういうことを通過してきたから、死ぬというのはあっちに行ったり、こっちに行ったりでそんなに大したことはないかなあと自分で思った。だから時期が来たらそれはしょうがない。それまで何が心配というのは鼻ばしらが強く、自分の仕事を誇れる作品が自分の眼で見えいつまで作れる、そのジャッジは自分でやっていると、そのジャッジが狂っていたら終わりだが、狂わない準備は狂っているの大丈夫だとは思。それだけが心配で、死ぬとかはどうでもいいかなあと思っている。

**M** 僕もジャッジが狂っていたらできないですよ。  
**N** 舞台稽古で「ああ、ここまでだなあ」と思わない？ 「失敗したなあ」って、ゲネプロで思わない？  
**M** 思わない。

**N** ええっ、幸せだな。  
**M** ゲネプロでは思わないが、初日が開いた後に思う。稽古場の後半になると客観性がどんどん出てくるのではないですか。初日が開いたらもう少し、こういうのがあったのかなあとかいろいろ違うアイデアが出てきたり、演技でもう少しここはこうだったと思うことはあります。

**N** 僕はゲネプロでだいたい決着が着いている。「ああ、俺の才能もここまでか」「○○が悪いからこの作品はメチャクチャだよな。でも言えねえな」と思ったりするが、「これは世界中で俺しかできない」と思っている。そういうことを通過してきたから、死ぬというのではあっちに行ったり、こっちに行ったりでそんなに大したことはないかなあと自分で思った。だから時期が来たらそれはしょうがない。それまで何が心配というのは鼻ばしらが強く、自分の仕事を誇れる作品が自分の眼で見えいつまで作れる、そのジャッジは自分でやっていると、そのジャッジが狂っていたら終わりだが、狂わない準備は狂っているの大丈夫だとは思。それだけが心配で、死ぬとかはどうでもいいかなあと思っている。

**M** 僕もジャッジが狂っていたらできないですよ。

**N** 舞台稽古で「ああ、ここまでだなあ」と思わない？ 「失敗したなあ」って、ゲネプロで思わない？

**M** 思わない。

### ■ 演出家 宮本亜門

1958年生まれ、東京都出身。出演者、振付師を経て、2年間ロンドン、ニューヨークに留学。帰国後の1987年にオリジナルミュージカル「アイ・ガット・ママン」でデビュー。翌88年には、同作品で「昭和63年度文化庁芸術賞」を受賞。ミュージカルのみならず、ストリートプレイ、オペラ等、現在最も注目される演出家として、活動の場を広げている。2004年には、ニューヨークのオンブロードウェイにて「太平洋序曲」を東洋人初の演出として手がけ、05年同作はトニー賞の4部門でノミネートされる。昨年は、演出したオペラ「コジ・ファン・トゥッテ」が文化庁芸術賞を受賞。今年1月にブロードウェイ・ミュージカル「スウィーニー・トゥッド」を上演し、7月に米国・ニューメキシコ、The Santa Fe Operaでタン・ドゥン作曲オペラ「TEA」、11月にはミュージカル「テイク・フライト」を上演予定。

### ■ (前)埼玉芸術文化振興財団芸術監督・演出家 蜷川幸雄

埼玉県川口市出身。シェイクスピアはもとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年4月には「さいたまゴールド・シアター」の活動を開始。6月には、イギリスでのRSC主催ザ・コンプリートワークスに日本で唯一招待され「タイタス・アンドロニカス」を上演し、絶賛を浴びた。まさに世界を舞台に疾走し続ける演出家。2006年、第5回朝日舞台芸術賞特別賞、第13回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞受賞。

### 欧米流の演劇 論理でしきしめるのが

**N** ブロードウェイではハーサルはどういう所での。  
**M** タイムズスクエアの近くで、汚いビルの四階でした。日本でブロードウェイ、ブロードウェイと言われてすごく期待して行くでしょ。行くと稽古期間はない、お金はないし、舞台寸法は取れない稽古場で本当に苦しかったです。

**N** それは分かる。俺も初めてウエストエンドでやった時に「お金は使えないよ」と最初に言われた。日本ではアンダーグラウンドより商業演劇はお金を使えるが、それは全く逆で、だからお金が使えなくて

分で来ているはずですよ。

**N** それは宮本亜門を見に来ていたんだよ。今日にはぎわっていても、埼玉で人気があるんだ。この劇場でやってくれよ。

**M** やりたいですよ、呼んで下さいよ。どこもすごい空間ですよ。

**N** 稽古場もいいよ。(拍手) すごいよ。宮本亜門でしかできない贅沢ない舞台をここで作って発信してよ。(拍手) 嫉妬はあるけれど、嫉妬はないんだよ。おかしい言い方だけれどそんなに強くないんだよ。

**M** もし僕がミュージカルでなくてストリートプレイをやりたいと言ったら嫌でしょう。

**N** そんなことはないよ、我慢する。(笑い)

**M** もう、最高！ 蜷川さんて可愛い人ですよ。

2007.1.8 彩の国さいたま芸術劇場 小ホールにて

やりたいですよ。呼んで下さいよ。  
どこもすごい空間ですよ。



# 人気沸騰！ 彩の国シェイクスピア・シリーズ

今年は1月からの「コリオレイナス」に続き、まもなく「恋の骨折り損」が上演される。2作品では稽古場見学やバックステージ・ツアーなどの企画も催され、またこれまでのシリーズで使用された衣裳や舞台装置の模型なども公開中。さまざまな面から、改めて彩の国シェイクスピア・シリーズの魅力に注目が集まっている。

「恋骨」必勝法  
今からでも間に合う、



『恋の骨折り損』と聞いて「あー、シェイクスピアのあれね。」と思った人はよほどの通人。ほとんどの人が「なに？それ」でしょう。そこで、この珍しいお芝居の楽しみ方を、少しだけご紹介いたしましょう。題して「今からでも間に合う、『恋骨』必勝法」。

まず、キーワードを二つ。

最初は「恋」。なにしろ主要な登場人物16人中、なんと11人が恋をするのです。これはシェイクスピアの作品でもダントツの割合（ただし成功率は？）。しかも劇の冒頭で四人の貴族が「女性にうつつをぬかさず勉強します」宣言をしようにも拘わらず、なのですから。そんな彼らの恋の行方に大注目。

次は「ことば」。もともとシェイクスピアの登場人物たちはよく喋る、と言われていますが、この劇中の人たちはそれに輪をかけて喋りまくります。また、膨大な語彙、卓抜な修辞を駆使して、恋を囁き、相手を攻撃し、自己を弁護し、真情を吐露し、そして自分自身に陶醉し

てゆくのですから。そんな彼らのことば遣いにも大注目。

このお芝居は、若きシェイクスピアがその持てる才能と作劇術の限りを尽くして書き上げた、いわば意欲作なのです。実は彼は続編として「恋の骨折り損」という芝居を書く予定だったとか。登場人物たちのめくるめく台詞回しに酔いながら、決して見るのできない続編に思いを馳せてみるのも一興なのではないでしょうか。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第17弾

## 『恋の骨折り損』

【日時】3月16日(金)～3月31日(土)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出】蛭川幸雄 【作】W.シェイクスピア 【脚訳】松岡和子

【出演】北村一輝、妻橋雄、篠塚俊介、高橋洋、内田滋、月川悠貴、中村友也、須賀貴匡ほか

【チケット(税込)】 残席僅少

S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 学生席2,000円

## 彩の国シェイクスピア・シリーズの多彩なイベントも好評

### 出演者、スタッフの真剣な様子にドキドキワクワクした 「コリオレイナス」の稽古場見学会

1月12日に行われた「コリオレイナス」稽古場見学会では、埼玉県在住の在勤、そしてメンバーの方約30名が、蛭川演劇の稽古の現場を見学。出演者、スタッフともに集中の途切れることのない稽古を見つけた参加者からは、「出演者の皆さんの力のこもった姿勢が本番につながっていく」「一つの舞台を作るのは、いかに大勢のスタッフによって支えられているか」などの声が聞かれ、それぞれにさまざまな発見をしながらの充実した時間となった様子でした。



### 普段見ることのできない舞台裏を垣間見た 「コリオレイナス」のバックステージ・ツアー



1月28日公演終了後、バックステージ・ツアーを実施。まず、舞台監督白石さんの案内で、舞台裏の様子や大道具の仕掛けなどを見学。普段見ることのない舞台裏には、衣裳や小道具などが機能的に並べられ、効果的な舞台転換のための様々な工夫がなされていることもわかりました。つ

づいての舞台美術家中越さんのお話では、舞台美術家の役割や蛭川さんとのやりとり、今回の舞台美術の意図などが解説されました。参加した30名からは熱心な質問も多く出され、舞台を知る貴重な体験となりました。

### 今や彩の国シェイクスピア・シリーズの名物 さいたまアーツ・シアター ライヴ!!

彩の国シェイクスピア・シリーズでお馴染みの「さいたまアーツ・シアター ライヴ!!」。1月23日から行われたコリオレイナス公演の際にもライブを実施しました。プラス、Wヴァイオリン、ピアノ、笙といったバラエティに富んだ編成で、一度は耳にしたことのある名曲や出演者自らが作曲した曲などを、開場前の30分間、劇場情報プラザなどで演奏したの。観劇に訪れた多くの方々は、すばらしい演奏を思いがけず聴くことができ、感激した様子。このライブは、もちろん「恋の骨折り損」公演でも行われます。

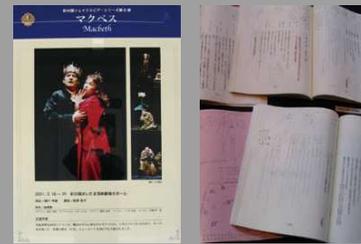


「恋の骨折り損」公演期間中なら誰でも見学できる

### 彩の国シェイクスピア・シリーズ企画展示

今、彩の国さいたま芸術劇場ガレリアと情報プラザには、第1弾「ロミオとジュリエット」(1998年)から第15弾「間違いの喜劇」(2006年)までを舞台写真等によって振り返るパネル展示のほか、舞台美術家中越司さん製作の舞台模型や小峰リリーさんデザインの舞台衣裳、演出助手、井上尊晶さんが使用した上演台本や香盤表が展示されています。連日、開演を待つ人たちが興味深そうに足を止めています。

この企画展示、「恋の骨折り損」上演期間中(～3/31)開催されており、どなたでも自由にご覧になることができます。



世界中の演劇人が注目する、  
この顔ぶれが実現

# エレンディラ

erendira

原作

## ガルシア・マルケス

マルケスの土着世界が  
蜷川をインスパイアする

シェイクスピア、ギリシャ悲劇、清水邦夫。蜷川幸雄が手がけてきた戯曲の、たぶんこれがベスト3になるかと思う。蜷川が初めてガルシア・マルケスに取り組むと聞いた時、かの南米の作家と演出家との共通項をイメージするのに役立ったのは、この中では清水邦夫。それに『身毒丸』や『草迷宮』の作者である寺山修司など、なぜか日本の作家のほうだった。

それは『百年の孤独』に代表されるガルシア・マルケスの、現実と非現実が綱い交ぜになったラテンアメリカ独特の世界観のせいかもしれない。「魔術的リアリズム(マジック・リアリズム)」と呼

音楽

## マイケル・ナイマン

ばれるその作風は、「非現実」部分がただの空想や幻想なのではなく、その土地の言い伝えや民話など、土着の風習や文化を背景にしているのが、大きな特徴といわれる。西欧の合理主義的発想では解析不可能な超常現象が当たり前のように起こり、かつ、それを極めて客観的に叙述するその文体には、読んでいて度肝を抜かれると同時に、そこはかたく懐かしさも感じられて痛快だ。

北陸出身の清水邦夫や、東北出身の寺山修司も、故郷の幻想を背負う作家という点では、通底するものを持っている。清水は昨年再演された「タンゴ・冬の終わりに」(1984年初演)に代表されるように、よく自身の出身地を彷彿とさせる北の町を舞台に選び、あいまいな過去と現実の狭間で、主人公を狂気に陥らせる。寺山は、郷愁漂う「見世物小屋の復讐」を標榜し、まやかしとあ

演出

## 蜷川幸雄

やかしの世界を展開させて、観る者の常識を揺るがせ続けた。近代の理性とは別次元の水脈を、秘めた清水と露わにした寺山。方法は異なるけれど、ともに分かちがたい望郷の念が、創作につながっているタイプだ。蜷川とガルシア・マルケスの組み合わせに親和性と期待を感じるのも、蜷川による清水や寺山作品の鮮やかな具現化を、幾度となく目撃してきたからだと思う。

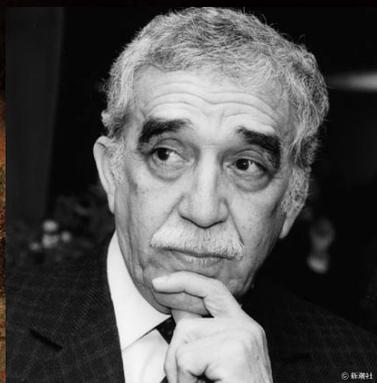
ナイマンの音楽で起こる  
予想もつかない化学反応

無垢な美少女エレンディラと、彼女に娼婦をさせる無情な巨漢の祖母、そしてエレンディラに恋する青年ウリセスの物語『エ

レンディラ』脚本の坂手洋二は、ウリセスを原作よりさらに神秘性を増した人物として登場させ、エレンディラがウリセスを残して疾走する結末には、眩惑的で神々しいラストシーンを加えて、独創的な劇的宇宙を構築している。それはまるで、蜷川がどんな風にこの夢のようなシーンをビジュアル化してみせるのか。その美意識と演出力を見込んで、坂手が思い切りイマジネーションを奮発してみせたかのように。

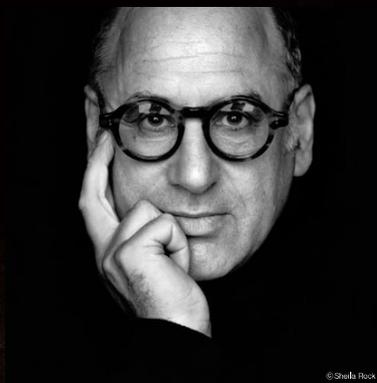
こうしたラテンアメリカと日本の土着性に、「理知」をメロディー化したと言っても過言でない、研ぎ澄まされたマイケル・ナイマンのオリジナル音楽が加われば、予想もつかない化学反応が起きるであろうことは、想像に難くない。世界中の演劇人がこのコラボレーションに注目するのも、無理のないことだ。

# García Márquez × Michael Nyman × Yukio Ninagawa



ガブリエル・ガルシア・マルケス 原作

1927年コロンビア生まれ。現実と幻想の世界が渾然と表現される「マジックリアリズム」の旗手として、多くの作家に大きな影響を与える。特に、1967年に発表した長編『百年の孤独』は世界中にセンセーションを巻き起こした。1982年にノーベル文学賞を受賞。全小説業の刊行が新潮社から進められるなど、現在の魅力が改めて見直されている。



マイケル・ナイマン 音楽

1944年ロンドン生まれ。音楽評論家でもあり、特定のフレーズを反復させて作られる音の波をつなげ、その中で徐々に音楽を展開していく「ミニマル・ミュージック」の作曲家でもある。また、『ピアノ・レッスン』『愛結いの亭主』などの数多くの映画音楽も手がけるほか、自ら「マイケル・ナイマン・バンド」を率いて演奏活動も行うなど、幅広い活動を行っている。



蜷川幸雄 演出

埼玉県川口市出身。シェイクスピアももとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年4月には「さいたまホール・シアター」の活動を開始。6月には、イギリスでのRSC主催ザ・コンフリットワークスに日本で唯一招待され「タイタス・アンドロニカス」を上演し、絶賛を浴びた。まさに世界を舞台に疾走し続ける演出家。2005年、第5回朝日舞台芸術賞特別大賞、第13回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞受賞、(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督。

### STORY

過失から祖母の家を全焼させてしまった少女エレンディラは、その責任をとるため、祖母により、娼婦として1日に何人もの客を取らされている。その美しさから、瞬く間に男連の人気を集めていたエレンディラだったが、ある時、彼女は本当の愛を誓う美青年ウリセスと出会う。2人は祖母からの脱出を試みるが、あっさりとつかまってしまふ。祖母から逃げるには彼女を殺すしかないと考えた2人は、それを実行しようとするが……。

蜷川幸雄演出 見世物祝祭劇

## 『エレンディラ』 NEW

砂漠に吹く風、男連の行列、人々が広場に集まり、祭りが始まる。その時、世界の中心で待ち望まれた奇跡の娘が現れる。その名はエレンディラ。

【日時】8月9日(水)～9月2日(日)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【原作】ガルシア・マルケス

【脚本】坂手洋二 【演出】蜷川幸雄 【音楽】マイケル・ナイマン

【出演】中川晃哉 美波 國村隼 瑛川朝陽ほか

【チケット(税込)】S席12,000円 A席7,000円

【発売日】一般4月14日(土)

※メンバーズプレオーダーに関しては、詳しくは同封のプレオーダーシートをご覧ください。

ピナ・バウシュ、ウィリアム・フォーサイス、イリ・キリアン等々、常に世界のダンス界において最前線に立つ才能を見せてきた彩の国さいたま芸術劇場に、また新たな顔ぶれが登場する。ヤン・ロワースとサシャ・ヴァルツ。この2人は今、ヨーロッパでも最も注目されているアーティストだ。2人の創造の源とは何か。昨年ヨーロッパで行われたインタビューから、創作の現場のエキサイティングな様子が伝わってくる。  
文・佐藤友紀（ライター）



ヨーロッパで最注目の2人が相次いで上演!

# ヤン・ロワース&ニードカンパニー

『イザベラの部屋』 Jan Lauwers & Needcompany 『Isabella's Room』

ヤン・ロワース&ニードカンパニー

## 『イザベラの部屋』

（日本語字幕付）  
古代エジプトやアフリカの発掘品、骨董品にあふれた部屋に暮らす盲目の老女イザベラ。彼女は20世紀のほとんを生きてきた。第一次世界大戦、第二次世界大戦、ロシア、植民地主義、ジョイスやピカソらのモダン・アート、月への有人旅行、デヴィッド・ボウイの「ジギー・スターダスト」……。9人の俳優、ダンサー、ミュージシャンが激動の20世紀を辿りながら、彼女の生涯を語り、歌い、踊る。ダンス、演劇、音楽が衝突したヤン・ロワースならではの舞台表現によって、あけられる死を巡る生への情熱。ヨーロッパでは、ヤン・ファールと並ぶ演劇の改革者として高い評価を誇るベルギー・フレイミッシュ・パフォーマンス・アーツ界の旗手の一人ヤン・ロワース&ニードカンパニーによる初上陸作品です。

【日時】 4月6日(金) 開演 19:00  
7日(土) 開演 15:00  
8日(日) 開演 15:00

※8日の公演終了後、演出家によるトークを行います。

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】 『イザベラの部屋』(2004年初演)

【構成・演出・舞台美術】 ヤン・ロワース

【テキスト】 ヤン・ロワース、

アネーケ・ボネマ「嘘つきのモノローグ」

【音楽】 ハンス・ペター・ダーレ、マルタン・シーケルス

【歌唱】 ヤン・ロワース、アネーケ・ボネマ

【出演】 俳優、ダンサー、ミュージシャン 10名

【チケット(税込)】 発売中

一般S席6,000円 A席4,000円 学生A席2,000円

メンバーズS席5,400円 A席3,600円

「クリエイションにジャンルの垣根はない」

「これでもヤン（ロワース）とは一緒に仕事をして来たけど、やはり『イザベラの部屋』は彼にとっても特別な作品なんじゃないかしら。確かにタイトルロールは私が演じているわよ。でも『ボヴァリー夫人』の作者フロバールが『ボヴァリー夫人は私だ』と言ったように、『イザベラの部屋』にはヤンの個人的な想いがいっぱい詰まっているの」

こう語るのはベルギーのベテラン女優ヴィヴィアン・ド・ミュンク（右はイザベラを演じるミュンク）。ヤン・ロワースが主宰するニードカンパニーの一員としてパフォーマンスをする時は若手メンバーに負けない弾けっぷりを見せるのに、「この作品と180度テイストの異なる『ヴァギナ・モノローグ』の演出も手掛けているわ。ヤンはカンパニーのメンバーのこういう多様な活動の仕方をちゃんと認めてくれるのよ」。



©Eveline Vereschke

それはヤン・ロワース自身。「表現には何でもあり。アプローチの仕方もいろいろあっていい」という考え方をしているからだろう。7年前にはウィリアム・フォーサイスの依頼でフランクフルト・バレエ団と共同制作をしたり、映像作品も数多く生み出しているのは、「クリエイションにはジャンルの垣根などないと思う」というロワースの姿勢に合致。しかもダンスや歌が効果的に織り込まれた舞台作品は、テキスト（台本や台詞）が薄いことも少なくないのに、イザベラ役ミュンクをして、「その途もないイザベラの“旅”の描写には、台詞を喋る私自身が感動してしまうくらいい」だとか。この作品、実験演劇とカテゴライズされるようだが、こんなにエキサイティングで先が読めない実験なら、つい客席から参加したくなる。



ヤン・ロワース

1957年アントワープ生まれ。ダント美術学校で学んだ後、79年にアート集団エビゴネンアンサンブルを結成。このアート集団は81年にエビゴネンシアターと改称した演劇集団となり、相次いで発表した演劇作品6作により演劇界に旋風を巻き起こした。85年にエビゴネン・シアターを解散し、翌年（86年）、ニードカンパニーを創立。暴力、愛、エロティシズム、そして死をテーマに、演劇とその意味を問い直す革新的な舞台表現によって、国際的な評価を得る。

「そもそも身体とは何か」を探求

一方、シェーベルトの音楽を用いてリヨン国立バレエ団に振付けた「ファンタジー」のような振付作品こそ、ポツンポツンと日本でも紹介されてきたドイツの女性振付家サシャ・ヴァルツ。99年～04年はベルリン・シャウビューネ劇場の共同ディレクターとして活躍してきたが、「子供たちの教育も含めたいろんな新しい才能と仕事をする事で、これまでになかったインスピレーションをもっと得たい。その意味ではこれを日本の観客に味わっていただけるのがとてもエキサイティングなのよ」と、近年の代表作の一つ『Körper ケルパー(身体)』の日本公演を心から喜んでいる様子だ。

スペイン・バルセロナで観た『Körper ケルパー(身体)』は、国籍も身体つきもダンス・スタイルも微妙に異なる13人のダンサーたちが繰り広げる「人間の肉体とはいかなる可能性を秘めているのか? いや、そもそも身体とは何か?」という大命題に対する公開アプローチ。「私自身、ダンサーとして踊ったり、早い時期から友人たちに振付けたりするうちに、人間の身体の機能や奥深さがわかっているのかと疑問に思ったの。一つ一つのパーツとして考えれば

生物学的なのに、そこに何らかの感情やパッションが生じると、身体はその人間の心の内側の叫びを響かせる楽器のようなものになる。それと、ダンスにおける重力についても考察してみたかった。ガラスの壁で囲まれた狭い空間にダンサーたちがうごめく様子は、見ようによっては顕微鏡で観察されている微生物のようだったりするけれど。(笑い) スローモーションという動きの技術が、不思議な次元の表現形態を生み出し、より細かに身体を感じるきっかけになるんじゃないかしら」

「ドイツ、いやヨーロッパでダンスや演劇に関わる仕事をしていて、ピナ・バウシュの影響を受けていない人間なんていないわ。(笑い)」と言うヴァルツ。『Körper ケルパー(身体)』にもところどころピナ風のコミカルなスケッチが登場するが、そのテイストはあくまでも別物だ。

「振付家としての私のキャリアの初期の頃から一緒に作品創りに参加してくれた日本人ダンサーのタカコに代表されるように、仲間との信頼関係、絆が、どんな挑戦も可能にしてくれていると思う。『Körper ケルパー(身体)』から始まる三部作の『S|noBody』もぜひ観ていただきたいわ」

『Körper ケルパー(身体)』の世界を味わったら、自然にその要求が湧き上がるはずだ。

NEW サシャ・ヴァルツ & ゲスト

## 『Körper ケルパー(身体)』

ピナ・バウシュに次ぐ世代を代表するドイツの振付家サシャ・ヴァルツが、ベルリンのシャウビューネ劇場の芸術監督時代に制作した代表作『Körper』、『S|noBody』と続く『身体』三部作の第一作目として世界的な評価を確立した作品の待望の上演です。

【日時】 7月28日(土) 開演 15:00  
7月29日(日) 開演 15:00

※28日の公演終了後、振付家によるトークを行います。

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】 『Körper ケルパー(身体)』(2000年初演)

【演出・振付】 サシャ・ヴァルツ

【チケット(税込)】

S席6,000円 A席4,000円 学生A席2,000円

【発売日】 メンバーズ 4月1日(土) 一般 4月7日(土)

※8月4日(土)に滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 中ホールにて公演あり(開演14:00)

サシャ・ヴァルツ

1963年カールスルーエ(ドイツ)生まれ。アムステルダムとニューヨークでダンスと振付を学ぶ。1993年にサシャ・ヴァルツ&ゲストを結成。1999年から2004年までシャウビューネ劇場(ベルリン)のアーティストック・ディレクション・コミュニティの一員を務め、『Körper ケルパー(身体)』、『S|noBody』の3部作を制作。高い評価を受ける。サシャ・ヴァルツ&ゲストは、2004年には再びインディペンデントなカンパニーとなり、旺盛な活動を続けている。



©Arndt Pinnl

# サシャ・ヴァルツ & ゲスト

『Körper ケルパー(身体)』 Sasha Waltz & Guests 『Körper』



©Bernd Lühke



ダンサー  
森山開次

一度、興味を持ち始めたら、とことん相手を分析し把握しようとする蠅川が、今、表現者としてもっとも関心を持っているアーティストのひとり、ダンサーの森山開次さんだ。その思いが募り、「talk・talk・talk」にご登場願ひ、観客の前で様々な質問を浴びせた蠅川に対し、懸命の応戦をする森山さん。さて、その結末は？



演出家  
蠅川幸雄

talk・talk・talk 第4回

るほど燃えてくるというか、とにかく身体を縛ることから始めました。それがたまたま足首で、足首をベッドに縛って寝ることで柔らかくしていくとかということをやリ、とにかく拷問状態を自分に強いて、足がなくなった夢を見ては起きるといふ……。

N そうすると効果があるのですか。  
M 絶対お勧めはできませんが、その時は少なくとも効果は出ました。

N 普通はそこまでやらないですよ。

M 今もその癖があって、だんだん内臓系までも鍛えることをやっています。身体のいろいろな所でも考えて、無意識にそういうことを探しているのでしょうか、寝ている時に知らないうちにストレッチをして、身体がほぐれて起きるといふようなことがよくあります。

N 病気だ！(笑い) ダンスを踊るといふことはそれほど身体に対して自覚的なんです。

M 何かいろいろと自分の身体を知りたくなるのです。

N 森山さんの公演「KATANA」を拝見しましたが、始め長い間片足で立っていますよね。あれだけ揺るがず、なおかつぶれずにいるということとは、自分の中でどう保持しているのですか。

M あれはすごく大変でした。蓄光のばみりの所から暗転を歩いていって、そのばみりに足を置いて、明かりが入るまでに間がしばらくあるのですが、その間に1回足を上げ確認します。そして世界にすぐに入りたい所なのですが、なるべくリラックスするように心がけていました。

N ああいう動きは、一人でいろいろな動きをやってみながら発見していくわけですか。それとも自然に出るものなのですか。

M 自然ではないです。ダンサーもアスリートのな所があってこんなことができないのだろうか、あんなことができないのだろうかという試すのです。そのうちにこんなこともできるようになった、あんなこともできるということが喜びでもあり、それが後から自分の表現のポキャラリーになってきました。

N 身体的なポキャラリーですか。

M そうですね。

N レーサーが走っていると音楽が聞こえて、青い空が見えるようになり、その時には全てが一体化するというのですが、演技もそこまで行かないかなあ、そういう集団がでたらいいなあとも思うのです。それが奇跡的に成り立つのには言語があるからなかなかあり得ないと思いますが、ダンスなどでは見ていると紛れもなくそういう世界と同一化する瞬間があり、森山さんのを観ていると、あの人達はいいなあ、ある瞬間は世界と自分が一つになった瞬間があるのではないか、ということですごくうらやましいのですが、これは僕の妄想でしょうか。

M 確かに、身体を動かしている自分の身体として実感がものすごくある中でいろいろなことを感じたり、一つになっていくことを確かに感じることはできますが、芝居などを観ているとそういうように感じますけれど。

N 森山さんのダンスを見ていると、身体ってここまでいくのだとか、ダンスの概念が大きく揺らぎます。それは衝撃的で、言葉を使う演劇では不自由さを感じたりします。言葉がない純粋さがあるだけ多種な身体的な言語を持っているのはすごいと思うから、ある種の憧れでしゃべっています。今日はありがとうございます。

M こちらこそありがとうございました。

2006.12.9 彩の国さいたま芸術劇場 小ホールにて

もりやまかいじ。1973年神奈川県生まれ。21歳からダンスを始め、国内・海外での公演に出演する傍ら、幅広いジャンルで振付を担当。2001年ソロ活動を開始し、「夕顔」「御法郎」などの素材を用いた独自の表現世界を確立。昨年9月、ニューヨークで初演した「KATANA」の日本公演を好評のうちに終了し、今年6月にはヴェネツィア・ビエンナーレでボディ&エロスをテーマにした新作を発表予定。NHK教育「からだであそび」出演中。

蠅川(以下N) 今日のゲストはコンテンポラリーダンサーの森山開次さんです。森山さんはあの髪の毛といい、何をどのように主張なさるのかを是非お話を聞かせて頂きたいと前から思っていた夢が叶い、本当に嬉しく思っています。森山さんどうぞ。(拍手)

まず、なぜそういう顔になっているかですが。(笑い)

森山(以下M) 目立ちたかったのです、きつと。小さい頃はすごく地味に生きていて、どちらかというと人前に入ることは苦手でした。でも自分でも目立ってみんなの前で何かをしたいという憧れは沸々とありました。それをずっと押さえてきていたので、それが髪型というものに反映して、主張しようとしたのかも知れないですね。

N 俳優をやっていたのですよね。

M 舞台というものに突然興味がわいてきた時に、たまたま音楽座のミュージカルの「マドモアゼル・モーツァルト」の舞台を観たので、突然そこに飛び込んでしまいました。

N それから今のようにコンテンポラリーダンサーに変わった契機は何だったのですか。

M 芝居とか歌の方に興味があったのにもかかわらず踊りにハマってしまったのも自分でも不思議なのですが、身体がすごく硬かったのです。研究所の稽古場で、レオタード姿で惨めな姿をさらしている自分が許さなくて、とにかくきれいに涼しい顔をして足を高く上げて踊れることをその場では思わなかったのです。それにはともかく柔軟だと思って、お酢を飲んでみたりといろいろとやりました。

僕はどうもマゾのようで、痛みを感じれば感じ

\*暗闇でも位置感がわかるように、その場所につけてお光るの目印。

知らないで損する、コンドルズの楽しみ方

コンドルズ 埼玉スペシャル公演 2007

# 「太陽にくちづけ007 トウモロロー・ネバー・ダイ」

「コンテンポラリー・ダンスは楽しい！」と観客を唸らせ、ダンスの概念を変えたコンドルズ。ダンスに演劇や映像の要素を取り入れたエンターテインングな公演は、国内では常に満員御礼、海外でも大好評。主宰する近藤良平は、NHK テレビ、CM、演劇等の振付でも活躍し、メンバーはラジオや音楽活動等でも人気を集めている。1年ぶりに彩の国さいたま芸術劇場に登場する彼らを、たっぷり楽しむ方法をキーワードで紹介しよう。

文・稲田奈緒美



写真提供は「勝利への脱出」(2006年)は有賀台写真より。© HARU

## ★ Keyword 1 映像、アニメがダンス公演に？

コンドルズの公演には、お約束の形式がある。その一つが幕開きの映像。映画館のCM やカラオケ映像を真似て古臭く、あるいはポップに仕上げた映像で一挙に彼らの世界へ引き込む。また、ノスタルジックな映像やシンプルなアニメをステージ途中にはさんで、フックと異次元へ誘う演出も心憎い。映像もアニメも手作りだ。



## ★ Keyword 4 生演奏も聴き所のひとつ

最初はヘタウマ感覚で、イ・ピアノ、ギターなどを演奏したり、ダンス音楽に使っていたが、次第に楽器が増えてバンドに拡大。音楽好きのメンバーは、ついに「THE CONDORS」としてメジャーデビューも果たした。



## ★ Keyword 5 ロックなダンスがやはり圧巻

爽を言うとか結成当初のダンスは、近藤を除いてお寒いものだった。しかし彼らは、モダンダンスと既存のテクニクを美德とせず、オリジナルなダンスを作り上げていった。近藤の振付の才能は、日常的な身振りを機敏自在に変換し、メンバーをスリリングにぶつかり合わせて、その反動や勢いを使ってダイナミックな群舞を構成する。そして生まれたのが、学ラン姿の男たちによるロックなダンス。映像、コント、演奏などの要素を繋いで公演を完成させるのが、身体が濡潤と語るエネルギーなダンスである。



いなたなおみ。舞踊評論家。幼少バレエを始める。様々なジャンルのダンス、ボディ・ワークを経験。大学卒業後、フリーライターを経て早稲田大学大学院文学研究科に進み、舞踊史、舞踊理論の研究を行なう。現在はバレエ、コンテンポラリー・ダンス、舞踏などの評論のほか、舞踊の理論と実践を結びつけた教育、活動論に携わっている。

## ★ Keyword 2 キャラがなければダンサーじゃない

枠に収まらない自由さとエネルギーに溢れたメンバーは、個性も体形も髪形もバラバラで、「キャラかぶり無し」。キャラをいかしたコントでは、おとぼけ、熱血、傲慢、いじられキャラなどが登場してナンセンスな笑いを連発し、太、小、細、太ぞった体形からじみ出る身振りのダンスも披露する。際立つキャラの秘密は、彼らの素顔。その多くは俳優、会社員、小学校や高校の教員、自営業など意外な本職を持っているのだ。



## ★ Keyword 3 人形劇のシュールな世界も

キャラが爆発するコントも楽しいが、大きな男達がまぢまぢと指人形やぬいぐるみを操り、声を変えて演じる人形劇も秀逸。愛らしい人形姿に反して、ストーリーはシュールでシニカル、ときに毒もあるから油断できない。ヘタウマ手作り感のキッシュ小道具や衣装も味わいのある一つ。



コンドルズ 埼玉スペシャル公演2007  
**「太陽にくちづけ007 トウモロロー・ネバー・ダイ」**  
 昨年5月に上演された「勝利への脱出 SHUFFLE」が絶賛を博したコンドルズが、「太陽にくちづけ」シリーズの埼玉スペシャルバージョンで、再び彩の国さいたま芸術劇場に登場。今度はどんな舞台を見せてくれるのか、乞うご期待。

【日時】5月12日(土) 開演 17:00 / 13日(日) 開演 13:00 / 開演 18:00  
 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
 【構成・映像・振付】近藤良平  
 【出演】青田潤一 石淵龍 オクタサトシ 藤山勝博 鎌倉道彦 古賀剛 小林顕作 高橋裕行 根爪利博 藤田雅宏 山本光二郎 近藤良平  
 【チケット(全席指定・税込)】発売中  
 一般席 前売4,000円 当日4,500円 学生席2,000円/メンバー席 前売3,600円 当日4,050円

未来の巨匠に注目!

いよいよ開幕する、期待の新企画

ピアノ・エトワール・シリーズ

# Piano Etoile Series

21世紀を担う若い才能に未来への希望を託して幕を閉じた「ピアニスト100」を受け継いで、新たに始まるのが、「ピアノ・エトワール・シリーズ」。

若いピアニストのなかでも、特に今後の活躍が注目を集めるに違いない4人の“未来の巨匠”たちが、「今弾きたい曲」を集めたプログラムを聴かせる。それぞれの聴きどころをご紹介します。文・森岡 葉 (音楽ライター)

ピアノ・エトワール・シリーズに最初に登場するのは2005年のショパンコンクールの覇者ラファウ・ブレハッチ。ショパンの祖国ポーランド待望の新星だ。昨年の来日ツアーでは、ショパンその人と思わせるような繊細でナイーブな容姿、詩情溢れる演奏で各地の聴衆を魅了した。常に謙虚な姿勢で作品に對峙し自身の音楽を追求している彼は、今回私たちにどのような演奏を聴かせてくれるのだろう。透明感のある美音で作曲家の内面に迫る瑞々しい音楽を堪能させてくれるに違いない。

第2回に登場するイリヤ・ラシュコフスキーは、ロシアの若き俊英。2002年の初来日の際のショパン《ピアノ協奏曲第2番》の抒情豊かな演奏に鮮烈な印象を受けた。今回のプログラムは彼の魅力が最も発揮されるロマン派の珠玉の作品。爽やかな笑顔と洗練されたピアニズムに誰もが魅了されることだろう。

第3回はイスラエル出身の異色のピアニスト、デイヴィッド・グレイルザンマー。一昨年の横浜市招待国際ピアノ演奏会で聴いたモーツァルトのコンチェルトの柔らかな弱音の美しさは忘れることができない。今回は、バッハ以前のオランダのオルガン奏者スウェーリンクから現代作曲家の作品まで、多彩なプログラムでピアノの魅力を再発見させてくれそう。

今年最後のシリーズを飾るのは日本期待の大型ピアニスト、小菅優。昨年のザルツブルグ音楽祭のリサイタル・デビューの成功で、世界中の注目を集めている23歳。ドイツで研鑽を積んだ彼女が原点に戻って奏でるバッハ、超絶技巧と深い精神性を聴かせるリスト、深刺りとした伸びやかな演奏を楽しませてくれることだろう。

## Vol.1 ラファウ・ブレハッチ

【日時】6月17日(日) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】J.S. バッハ:イタリア協奏曲 BWV991

リスト:《3つの演奏会用練習曲》より「軽やかな」

《2つの演奏会用練習曲》より「森のさわめき」,《小人の踊り》

ドビュッシー: 版画

ショパン: 舟歌 Op.60、24の前奏曲 Op.28

【発売日】4回セット券・1回券とも発売中

## Rafal Blechacz

PROFILE

1985年ポーランド生まれ。2003年浜松国際ピアノコンクール第2位(1位なし)、04年モロッコ国際ピアノコンクール優勝。05年ショパン国際コンクールではツィメルマン以来30年ぶりのポーランド人優勝と同時に、マズルカ賞、ポロネーズ賞、コンチェルト賞の3特別賞受賞。現在、ナウヴェジスキ音楽大学でK.ポポヴァ=ズイドロンに師事しながら、ヨーロッパを中心に演奏活動を行っている。

<http://www.blechacz.net/>

## Vol.2 Ilya Rashkovskiy



## イリヤ・ラシュコフスキー

【日時】9月8日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】シューベルト:4つの即興曲 Op.90 D899

ブラームス:ハガノーニの主題による変奏曲 Op.35

スクリャービン:幻想曲 口短調 Op.28

ワーグナー=リスト:イゾルタの愛の死(《トスタスタンとイゾルタ》より)   
 バラード・紡ぎ歌(《さまよえるオランダ人》より)   
 幻想曲(《リエッツィ、最後の農民》より)

【1回券発売日】メンバーズ 5月26日(土) 一般 6月2日(土)

PROFILE 1984年ロシア、シベリアのイルクーツク生まれ。98年にクライネフ国際コンクールに優勝し、2000年よりドイツ・ハノーファー音楽学校でV.クライネフに師事。01年ロン＝ティボール国際音楽コンクール第2位。翌年サントリーホールでの同コンクールガラ・コンサートのため初来日。04年2月には日本各地でリサイタルを開催。音楽性の高さや卓越した技巧で好評を博した。05年香港国際ピアノコンクール(審査員長:アシュケナージ)で優勝。

## Vol.3 David Greilsammer



## デイヴィッド・グレイルザンマー

【日時】11月23日(金・祝) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】スウェーリンク:わが青春はすでに過ぎ去り

ケレン:ファンタジー、とはいえず2つのファンタズトローフ(日本初演)

モーツァルト:幻想曲 短調 KV475

ヒナステラ:アルゼンチン舞曲 Op.2

リゲティ:《ムジカ・リチルカータ》より 6つの楽章

モーツァルト:ピアノ・ソナタ第11番 イ長調 KV331(2000「トルコ行進曲付き」)

グラナドス:《ゴイエスカス=恋するマホカ》より(愛と死(バラード))

【1回券発売日】メンバーズ 7月21日(土) 一般 7月28日(土)

PROFILE 1977年エルサレム生まれ。6歳でアメリカ・イスラエル賞受賞。兵役後、ジュリアード音楽院で指揮とピアノを学ぶと同時に、R.グールドに師事。2004年ジュリアード国際協奏曲コンクール優勝。06年にはSuedamaアンサンブルを弾き振ったモーツァルトの初期協奏曲録音(Vanguard Classics)をリリースし、『ル・モンド』等主要メディアから高く評価された。07年6月にNaiveレーベルよりソノCDリリース予定。  
<http://www.davidgreilsammer.com/>

## Vol.4 Yu Kosuge



## 小菅 優

【日時】12月9日(日) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】バッハ:インヴェンションとソナタ BWV772-801

リスト:悲しみのゴンドラ第1番・第2番、ピアノ・ソナタ 口短調

ノクターン「夢のなかに」

【1回券発売日】メンバーズ 9月1日(土) 一般 9月8日(土)

PROFILE 1983年東京生まれ。93年よりヨーロッパに住み、研鑽を積みながら次々と演奏活動を重ねる。2000年、ドイツ最大の音楽批評誌「フォノ・フォルム」でショパンの練習曲全曲録音に5つ星の評価を得る。02年に第13回新日録音賞受賞。04年にアメリカ・ワシントン賞を受賞。06年8月にはザルツブルグ音楽祭で日本人ピアニストとして2人目となるリサイタル・デビューを果たし、大成功を収めた。第8回ホテルオークラ音楽賞受賞。 <http://www.yukosmos.com/>

## 【ピアノ・エトワール・シリーズ チケット(税込)】

● 4回セット券 S席セット12,000円 A席セット8,500円

※シリーズを通じて同じ席を指定できる「マイ・シート」。お気軽にの席でお聴きいただけます。

● 1回券 S席3,500円 A席2,500円 学生A席1,000円 メンバーズ S席3,150円 Vol.1のみ発売中

# ブラスの魅力を堪能できる ニューヨーク・フィル・ブラス・クインテット

あのニューヨーク・フィルハーモニックから選りすぐりのブラス奏者たちによる魅惑のクインテットがやってくる。どんな演奏を聴かせてくれるのか、今から心待ちにしているファンが多い。 文・奥田佳道(ライター)

New York Philharmonic  
Brass Quintet

## ニューヨーク・フィル・ブラス・クインテット

【日時】7月7日(土) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】  
レンウィック:ダンス  
J.S. バッハ=ローゼンタール:トランペットのためのエール  
J.S. バッハ=ラウシャール:  
《無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第1番》BWV 1002 より  
サラバンド、アール  
ロッシェニ=エルカー:歌劇《泥棒かきさぎ》序曲  
ディロレンツォ:ファイアーダンス  
ピゼーニ=エルカー:「カルメン」組曲  
ガーシュイン=ブラ:クインテッサンシャル・ガーシュイン 他

【出演】  
フィリップ・スミス(トランペット)  
マシュー・マッキー(トランペット)  
ジョセフ・アレッシ(トロンボーン)  
フィリップ・マイヤーズ(ホルン)  
アラン・ペイアー(チューバ)

【チケット(税込)】発売中  
一般 4,500円 学生 1,500円  
メンバーズ 一般 4,050円



Photo

フィリップ・スミス(トランペット) Philip Smith 左上  
マシュー・マッキー(トランペット) Matthew Muckey 左下  
ジョセフ・アレッシ(トロンボーン) Joseph Alessi 右下  
フィリップ・マイヤーズ(ホルン) Philip Myers 右上  
アラン・ペイアー(チューバ) Alan Baer 中央

© David Finlayson

ファン憧れのブラスの達人、大御所が勢揃い。ブラス好き、それぞれの楽器を習っている人はもう居ても立っても居られないのではないか。何を大げさなというなかれ。剛毅な技と無類のエンターティナーぶりを誇る、金管の顔・顔・顔がやってくるのだから、少しぐらいなら今から興奮してしまっても構わないと思う。

昨年11月の日本公演でも賞状を示した老舗ニューヨーク・フィルハーモニック(現在の音楽監督はマゼール)。多国籍のすぐ腕メンバー(最近アジア系の進出が目立つ)が名を連ねた同フィ

ルのなかでも、やはりこの5人は特別だ。見ても聴いても目立つ。マゼール指揮ニューヨーク・フィルのアンコールでやおら立ち上がり、グルーヴ感あふるるジャズを披露したことだってある。

金管五重奏の「古典」から編曲もの、今どきのレパートリーまで、ブラス(クインテット)演奏シーンの一翼を担う彼らは、何を取り上げて「強力」だ。いっぽう遊び心も客席を捉えて難さない。

ヴェテランならではの名人芸が聴こえてくることだろう。日頃、このジャンルは縁がなくてねえ、という方にもお勧めだ。

# 宮本益光バリトン・リサイタル



Masumitsu Miyamoto

2004年の夏に二期会《ドン・ジョヴァンニ》のタイトルロールに大抜擢され、その卓越した表現力・想像力により演出の宮本亜門を驚嘆させたバリトン・宮本益光が、いよいよ彩の国さいたま芸術劇場に登場する。共演するピアニストは、宮本と共に多くの演奏活動を各地で行うなど、息もむじりたりの加藤昌則。

甘いマスクと個性的な表現力、そして華麗なピアノの旋律と柔らかく深い響きのバリトン・ヴォイスで聴衆を魅了すること間違いなし!

## 宮本益光バリトン・リサイタル **NEW**

【日時】9月30日(日) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】山田耕筰:赤とんぼ

モーツァルト:歌劇《魔笛》より 俺は鳥列し

ヴァーグナー:歌劇《タンホイザー》より 夕星の歌

シューベルト:シューベルトの子守歌(日本語詞:松本隆) 武満徹:小さな空 他

【チケット(税込)】一般 3,000円 学生 1,000円 メンバーズ 一般 2,700円

【発売日】メンバーズ 5月12日(土) 一般 5月19日(土)

※9月29日(土)に彩の国さいたま芸術劇場 大練習室においてワークショップを実施予定。

詳細は次号にてお知らせいたします。

メゾソプラノ

ピアノ

# 白井光子 & ハルトムート・ヘル リート・デュオ リサイタル

～名歌手シュワルツコップに捧ぐ～

## Mitsuko Shirai & Hartmut Höll

今やドイツ・リート第一人者として名高い白井光子&ハルトムート・ヘルデュオは、今年演奏活動35周年を迎えます。この記念の年に彩の国さいたま芸術劇場と所沢市民文化センターミュージックが共同企画でお贈りするの、20世紀の名歌手であり、白井光子&ハルトムート・ヘルも敬愛する師、エリザベト・シュワルツコップに捧げる2つのリート・デュオ リサイタル。なかでも当劇場での、シューマンの連作歌曲の名作《女の愛と生涯》は聴き逃せません。

## 白井光子 & ハルトムート・ヘル **NEW**

リート・デュオ リサイタル ～名歌手シュワルツコップに捧ぐ～

【日時】10月27日(土) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目(予定)】シューマン:リダークライス Op.39、女の愛と生涯 Op.42 他

【チケット(税込)】一般 4,000円 学生 1,500円 メンバーズ 3,600円

【発売日】メンバーズ 5月12日(土) 一般 5月19日(土)

※本公演は、所沢市民文化センターミュージックとの共同企画です。

関連公演

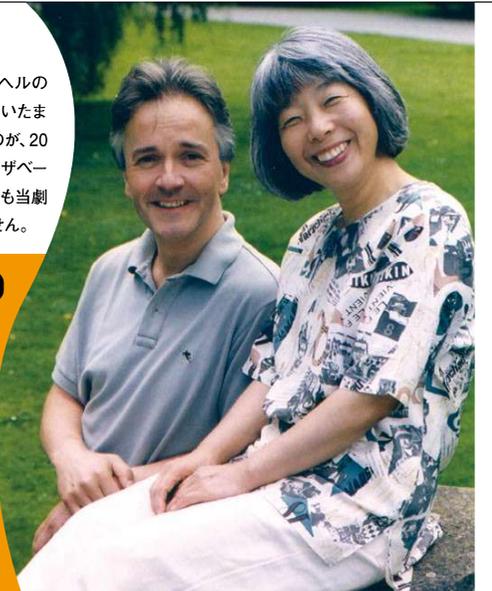
【日時】11月4日(日) 開演 15:00

【会場】所沢市民文化センターミュージック マーキーホール

【曲目】シューマン、ヴォルフ等、ドイツ・リート名曲歌道集

【チケット(税込)】S席 3,500円 A席 2,500円 B席 1,500円 【発売日】5月19日(土)

【お問い合わせ】ミュージック チケットカウンター ☎04-2998-7777



© brochure

# ポジティブ・オルガンと触れあう新しい体験を

“ポジティブ・オルガン”を知っていますか？  
小型ではありますが、れっきとしたパイプオルガンなのです。  
彩の国さいたま芸術劇場ではこの“ポジティブ・オルガン”を聴いて楽しむコンサートと、弾いて楽しむ講座を開催。  
お気軽にご参加ください。

## 1 「光の庭 プロムナード・コンサート」

監修：鈴木雅明 構成：大塚直哉

“ポジティブ・オルガン”は1段鍵盤の、移動ができるパイプオルガンのこと。光の庭プロムナード・コンサートでは、彩の国さいたま芸術劇場のガルニエ型オルガンの魅力を、歌や楽器とのアンサンブルでお届けします。しかも、入場無料、出入り自由。40分のショートプログラムで、土曜の昼下がりに、光庭のある情報プラザで至福のひとつときをお過ごしください。なお、終演後には、オルガンを見学・体験することができます。



【監修】鈴木雅明  
【構成】大塚直哉  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ  
【時間】14:00 開演（公演時間40分）  
※入場無料

©加藤 英次

【日時】	
4月7日(土)	大木麻理 共演：本多啓佑（オーボエ） 【曲目】G. F. ヘンデル：オーボエ・ソナタ へ長調 他
5月26日(土)	広沢麻美 共演：石淵聡（マンドリン） 【曲目】大中寅二：椰子の美 / 「オルガン聖曲集」より 他
6月9日(土)	大久しおり 共演：山崎千恵（ソプラノ） 【曲目】カペソン：騎士の歌によるディヴァレンシアス 他
8月4日(土)	大塚直哉 共演：奥田直美（リコーダー） 【曲目】作者不詳：グリーンズリ・ヴス変奏曲 他
9月15日(土)	花澤絢子 共演：小林瑞葉（ハロック・ヴァイオリン） 【曲目】スウェーリウク：わが青春は過ぎ去り 他
11月10日(土)	今井奈緒子
12月1日(土)	永瀬真紀 共演：横田揺子（クラリネット）
2008年	
1月26日(土)	椎名雄一郎 共演：長瀬正典（サクソフォーン）
2月16日(土)	石丸由佳 共演：柴田恵梨子（トランペット）
3月29日(土)	吉田恵 共演：高橋節子（ソプラノ）



「オルガン・ミニ・コンサート」過去の公演より。©加藤 英次

## 2 「みんなのオルガン講座 ~Organ for ALL」

講師：大塚直哉

オルガンのことを知り、演奏もできる「みんなのオルガン講座～Organ for ALL」。参加者から好評をいただき、平成19年度は装い新たに開講。現在、体験レッスン受講希望者を募集しています。



昨年の「みんなのオルガン講座～Organ for ALL」の様子。

### ♪体験レッスン（定員：各回20名）

オルガンの仕組みや歴史についてのお話と、オルガンの体験レッスン。簡単な課題曲あり。オルガンは初めてという方向きの気軽な講座。

【日時】第2回：5月12日(土) 第3回：6月16日(土)  
※第1回は締め切りました。

【対象】鍵盤楽器の経験があり、オルガンに興味のある方  
【受講料】 各回500円  
【申込締切】 各開催日の1ヶ月前同日必着。応募者多数の場合、抽選。  
【応募方法】  
往復はがきの往復裏に①希望の日程 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥FAX番号 ⑦音楽歴 ⑧オルガン演奏経験の有無をご記入の上、〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1、彩の国さいたま芸術劇場 事業部「みんなのオルガン講座」係までお申込ください。詳細については、048-858-5506 までお問い合わせください。

### PICK UP では紹介しなかった公演情報 EVENT INFORMATION

#### 5.3 ウィーン少年合唱団

日本でもお馴染みのウィーン少年合唱団が彩の国さいたま芸術劇場に初登場。天使にもたとえられる彼らの歌声を、「世界の歌」を中心とした多彩なプログラムでお楽しみください。

- ◆ 5月3日(水・祝) 開演14:00
- ◆ 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
- ◆ 曲目：モーツァルト：汝により守られ サン＝サーンス：アヴェ・マリア ～世界の歌～  
ふるさと（日本） アメイジング・グレイス（アメリカ）  
ヴェルナー：野ばら シューマン：流浪の民  
J.シュトラウスⅡ：ワルツ「美しく青きドナウ」他
- ◆ チケット(税込)：全席指定 5,000円 小・中学生 2,000円 メンバーズ 4,500円
- ◆ 発売中



#### 5.22 NEW 埼玉会館 ランチャタイム・コンサート

◆ 6月22日(金) 開場11:30 / 開演12:10 (終演12:50)  
◆ 埼玉会館 大ホール ◆ 曲目：グノー：小交響曲より 他  
◆ 出演：東京交響楽団メンバーによる木管アンサンブル  
相澤政宏（フルート）  
篠崎隆、福井貴子（オーボエ）  
十亀正司、近藤千花子（クラリネット）  
大笠原慶、内田絳雄（ファゴット）  
竹村淳司、曾根敦子（ホルン）  
◆ チケット(税込)：1,000円  
◆ 発売日：メンバーズ 3月21日(水・祝) 一般 3月24日(土)



#### 8.5 NEW 埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラ!

◆ 8月5日(日) 開演14:00 ◆ 埼玉会館 大ホール  
◆ 曲目：ロッシニー：「ウィリアム・テル」序曲より  
小室広広：ディズニーのメロディによる管弦楽入門  
モーツァルト：「ピアノ協奏曲第23番 長調」K.488より 第1楽章  
ウィリアムズ：スター・ウォーズ・メドレー  
指揮者にチャレンジ！～ピゼー：歌劇「カルメン」より 前奏曲  
みんなまで歌おうと演奏しよう～  
久石譲：映画「千と千尋の神隠し」より（いつも何処でも）  
エルガー：行進曲「威風堂々」第1番 二長調 Op.39  
◆ 出演：朝岡聡（ナビゲーター） 飯森範親（指揮） 尾崎優衣（ピアノ）  
◆ チケット(税込)  
S席 大人4,000円 こども(中学生以下) 2,000円 親子セット(大人1枚+こども1枚) 5,500円  
A席 大人3,500円 こども(中学生以下) 1,500円 親子セット(大人1枚+こども1枚) 4,500円  
★3歳未満のお子様のご入場はご遠慮ください。  
◆ 発売日：メンバーズ 4月7日(土) 一般 4月14日(土)



朝岡聡 飯森範親 尾崎優衣

#### 4.13 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～立川談春

春の四季彩亭は、七夜連続の「談春七夜」、初心者向けの「白談春」、玄人向けの「黒談春」などの独演会は即日完売、古典落語のうまさ師匠の立川談春からも一目置かれる。立川談春が登場します。今、もっとも乗りに乗っている旬の芸をお楽しみ下さい。

- ◆ 4月13日(金) 開演 19:00 ◆ 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
- ◆ チケット(税込)：一般 3,000円 メンバーズ 2,700円
- ◆ ゆうゆう割引(学生・65歳以上) 2,000円
- ◆ 発売中



#### 4.14～ 源氏語り54帖

身近な言葉で難解な古典文学を現代にのみがえらせる三田村雅子さんの解説と、「生きた古典の言葉」で幸田弘子さんの朗読で、源氏物語54帖すべてを読み解いていく壮大なシリーズ。光源氏の時代はいよいよ幕を閉じようとしています。

- ◆ 第37回 4月14日(土) 【御法】 第38回 7月8日(日) 【幻】
- ◆ 第39回 9月16日(日) 【露陽】 各回 開演 14:00
- ◆ 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
- ◆ 出演：幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説/フェリス学院大学教授)
- ◆ チケット(税込)：全席指定 1回券 2,500円 第37～39回連続券 6,600円
- ◆ 発売中



#### 7.13 NEW 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～林家木久蔵 きくお

夏の四季彩亭は、林家木久蔵・きくおの親子競演です。きくおの真打ち昇進、2代目木久蔵襲名にあわせて、9月に親子ダブル襲名を行う、話題の二人をお見逃しなく。

- ◆ 7月13日(金) 開演19:00 ◆ 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
- ◆ チケット(税込)：一般 3,000円 メンバーズ 2,700円
- ◆ ゆうゆう割引(学生・65歳以上) 2,000円
- ◆ 発売日：メンバーズ 4月7日(土) 一般 4月13日(金)

#### 5.11 - 5.13 ルキノ・ビスコンティ生誕100年 「山猫」(イタリア語・完全復元版)

何も足さず何も引かない。完璧なる3時間06分の陶酔！歴史の波にのまれゆく、誇り高きイタリア貴族の栄華と悲哀…映像の世界遺産ともいわれる名作「山猫」が、熾然と真の輝きを放つ！ 静かに滅び行くサリナ公爵。ビスコンティは敗れる者の姿を冷徹なまでの眼差しで描き出し、最後まで人間が善き未来に進めることを信じた。

- ◆ 5月11日(金) ①②・12日(土) ③④・13日(日) ⑤⑥
- ◆ 10:00～13:10 ①②③④ 14:00～17:10 ⑤ 18:00～21:10 ⑥
- ◆ 12日(土) 2回目上棟後にアフターあり！
- ◆ 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
- ◆ 監督：ルキノ・ビスコンティ
- ◆ 出演：バート・ランカスター、アラン・ドロン、クラウディア・カルディナーレ(ほか1963年 ①②・1979年)
- ◆ チケット(税込)：全席自由  
一般 前売1,500円 当日 1,700円 / 小中高生 前売800円 当日1,000円 ◆ 発売中



#### 6.22 - 6.24 「ゆるる」 NEW

兄と僕はどこかつながっているんだと思っていました……これまでは。兄弟を軸に捉えながら対照的な2人の内面のさまざまな「ゆるれ」を深く掘りさげ、普遍的な人間ドラマを興行きのあるスケール感とともに作りあげた。失ってしまったもの、取り戻すことのできないもの、その痛み、そしてささやかな願い……。深い洞察力とともに人間の感情に迫り、心を揺さぶる名作。

- ◆ 6月22日(金) ①②③
- ◆ 23日(土) ④⑤⑥・24日(日) ⑦⑧⑨
- ◆ 10:00～12:10 ①②③④ 13:00～15:10 ⑤
- ◆ 16:00～18:10 ⑥ 19:00～21:10 ⑦⑧⑨
- ◆ 23日(土) 2回目上棟後にアフターあり！
- ◆ 監督：西川美和
- ◆ 出演：オダギリジョー、香川照之、伊武雅刀、木村祐一(ほか2006年/日本/119分)
- ◆ チケット(税込)：全席自由  
一般 前売1,000円 当日1,200円 / 小中高生 前売800円 当日1,000円
- ◆ 発売日：4月13日(金)



発売中及び近日発売のすべての公演情報

EVENT CALENDAR



PLAY

3.16 fri 3.31 sat 彩の国シェイクスピア・シリーズ第17弾 「恋の骨折り損」

6月下旬 NEW さいたまゴールド・シアター本公演 「夜明け、そしていくつかのモノローグ(仮題)」

8.9 thu 9.2 sun NEW 蛭川幸雄演出 見世物祝祭劇 「エレンディラ」

DANCE

4.6 fri 4.8 sun 「イザベラの部屋」

5.12 sat 5.13 sun コンドルズ 埼玉スペシャル公演2007 「太陽にくちづけ007 トゥモロー・ネバー・ダイ」

7.28 sat 7.29 sun NEW サシャ・ヴァルト&ゲッツ 「Körper ケルパー(身体)」

MUSIC

5.3 thu ウィーン少年合唱団

6.17 sun 5.12.9 sun ピアノ・エトワール・シリーズ

7.7 sat ニューヨーク・フィル・プラス・クインテット

9.30 sun NEW 宮本益光バリトン・リサイタル

10.27 sat NEW 白井光子(メゾソプラノ) & ハルトムート・ヘル(ピアノ) リート・デュオ リサイタル

COMMUNICATION

3.17 sat 4.7 sat 5.26 sat 光の庭プロムナード・コンサート

4.8 sun NEW 蛭川幸雄公開対談 NINAGAWA 千の目 第8回

6.22 fri 埼玉会館 NEW ランチタイム・コンサート

8.5 sun 埼玉会館ファミリー・クラシック NEW 夏休みオーケストラ!

AT RANDOM

4.13 fri 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~立川談春

4.14 sat 9.16 sun 源氏語り54帖

7.13 fri 彩の国さいたま寄席 NEW 四季彩亭 ~林家木久蔵 きくお

CINEMA

4.13 fri 4.15 sun 彩の国シネマスタジオ 『フラガール』



5.11 fri 5.13 sun 彩の国シネマスタジオ ルキーノ・ピスコンティ生誕100年 『山猫』

6.22 fri 6.24 sun 彩の国シネマスタジオ 『ゆるる』 NEW

チケットの購入方法について

窓口販売 各会場(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)チケット販売窓口にて...

窓口営業時間 彩の国さいたま芸術劇場 10:00~19:00(休館日を除く)

電話予約&販売 チケットの電話でのご予約は、財団チケットセンターにて承っております。

インターネット販売 ホームページ(http://www.saf.or.jp/)から、空席状況の検索、チケットの購入ができます。

チケット代の支払い方法

■窓口 現金、クレジットカード ■電話 現金、クレジットカード、コンビニエンスストア振込

■インターネット クレジットカードのみ ■コンビニエンスストア振込でのお支払いの場合、入金確認後、チケットを発送いたします。

■セット券、連続券、学生券などの割引サービスについて ■セット券・連続券は、原則として前売のみ(開催日の前日まで)のお取り扱いです。

ご注意及びお願い事項

●チケット発売初日の窓口での購入枚数、お電話でのご予約枚数を制限させていただきます...

(財)埼玉県芸術文化振興財団 メンバース特典

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館共通のメンバーズに入室すると、「便利」で「楽しい」特典がもれなく付いてきます。

年会費:2,000円 メンバース料金 財団主催公演で3,000円以上のチケットは10%OFF

財団情報誌 彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館で行われる公演情報が掲載されている、情報誌をお手元に届きます。

優先予約 一般発売日より早く、チケットをご予約いただけます。

プレオーダー 人気公演はメンバーズの優先予約に先駆けてプレオーダー。 ※指定席の場合、お席は抽籤になります。

レストランでの割引 彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館のレストランでのお食事が2名様までが10%OFF。

ポイント制度 チケットを購入するとポイントが貯まります。貯まったポイントはチケットと交換することができます。

キャッシュレス

チケット代金、年会費のお支払いは、ご登録いただいた口座からの口座引落しになります。

チケットの安心無料送付 ご購入いただいたチケットは、セキュリティパックにてお届けいたします。

その他

ジョン・レノン・ミュージアム(TEL.048-601-0009)への入場料金が割引になります。

表 蛭川幸雄演出「コリオレナス」舞台写真より。

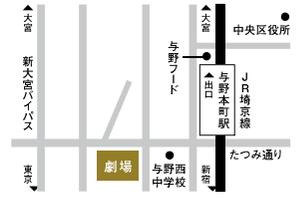
裏表紙 「ピアノ・エトワール・シリーズ」

編集 嶋澤淳子



発行日:2007年3月15日 発行所:埼玉会館

彩の国さいたま芸術劇場



〒330-8506 埼玉県さいたま市中央区上郷2-15-1 電話:048-958-6500(代) ファックス:048-958-9515

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4 電話:048-929-2471(代) ファックス:048-929-2477

熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市東広草3-9-2 電話:048-523-2535 ファックス:048-523-2536

サポーター企業一覧(H19.1.24現在 59社)

(株)与野フードセンター/(株)角屋・武州ガス(株)/(株)エフテック/(株)松本商会/(有)香山壽夫建築研究所/埼玉新聞社



### 速報、さいたまゴールド・シアター本公演

# ベテラン 岩松了 が新作を書き下ろす！ 『夜明け、そしていくつかのモノログ』(仮題)

第2回さいたまゴールド・シアター中間発表公演「Pro~cess2」舞台、おれたちは弾丸をこめる」舞台写真より。© 岩田 伸

第2回中間発表公演『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』の興奮醒めやらぬ昨年末、さいたまゴールド・シアター本公演の方向性が決定し、団員たちの興奮はいや増すこととなった。というのも、なんとあの人気劇作家、岩松了氏が、この1年間余の集大成とも言えるさいたまゴールド・シアター本公演のために新作を書き下ろすことになったのだ。もともと岩松氏は第1回の中間発表公演『Pro~cess ~途上~』を観劇し、「感激」。団員ひとりひとりのパワーに圧倒され、自作の提供を申し入れたという経緯。さらに『鴉よ〜』観劇後、団員のキャリアや志望動機をリサーチするなど、急な準備を踏まえての新作書き下ろしとなった。内容はまだ明らかではないが、噂では船上が舞台で、どこかに向かう謎の集団が登場するとか。自ら九州行きのフェリーに乗り込み、体験取材も敢行した岩松了氏。その体当たりの作家魂から生み出される新作を、蛭川幸雄がどう演出し、さいたまゴールド・シアターの役者たちがどう応えるか。ますます期待は高まるばかりだ。

さいたまゴールド・シアター 本公演

## 『夜明け、そしていくつかのモノログ』(仮題) NEW

【日時】6月下旬

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【作】岩松了

【演出】蛭川幸雄

【出演】さいたまゴールド・シアター

※詳細に関しては、発表お知らせ致します。

### 岩松了 (いわまつりょう) PROFILE

昭和27年長崎県生まれの劇作家・演出家・俳優、劇作家として、'89年『顔面と逆巻』で第33回岸田國士戯曲賞、'94年『こわれゆく男』『輪を闘う姉妹』で第28回紀伊國屋演劇賞個人賞、'98年『テレビデイズ』で第49回読売文学賞受賞など、受賞作数多し。『シブヤから遠く離れた』は'04年に蛭川幸雄が演出した。俳優としても舞台『アザの女』、TV『時効警察』(のためカンパニー)など多方面で活躍中。



＜応募方法＞  
はがき以下の事項を記入の上、締切日までにご投函ください。(応募多数の場合は抽選を行います。この場合、入場券の発送をもって抽選結果の発表にさせていただきます。)なお、メンバーの方に対する優先枠を設けています。

- 記入事項
  - ①郵便番号・住所 ②氏名 ③年齢 ④会員番号(メンバーの方)
  - ⑤希望人数(1枚のはがきで2名様まで)
- 応募締切
  - 3月25日(日) 当日消印有効
- 応募先
  - 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-1-15
  - (財)埼玉県芸術文化振興財団「干の目入場募集係」
- 問合せ先
  - 財団メンバー事務局 tel.048-858-5507

蛭川幸雄公開対談

## NINAGAWA千の目 第8回 NEW

女優 寺島しのぶ × 演出家 蛭川幸雄

【日時】4月8日(日) 13:00 ~ (約1時間)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

てらしましのぶ、1972年生まれ、京都府出身。父は尾上菊五郎、母は富岡純子、弟は尾上菊之助という、演劇・俳優一家に生まれ、大学在学中よりテレビドラマ、舞台、映画などで活躍。演劇では、昨年『唐く女』で第6回朝日劇台芸術賞【舞台芸術賞】、第14回読売演劇大賞【最優秀女優賞】(第11回に続く2回目)をダブル受賞した。また、映画では『赤目四十八滝心中未遂』で2004年に第27回日本アカデミー賞【優秀主演女優賞】、第46回ブルーボン賞【主演女優賞】などの主要な映画賞を総なめにするなど、日本を代表する実力派女優。今年1月には主演映画『暁の演舞場』が公開され、大衆な話題を呼んだ。彩の国シキエビシアターシリーズでは第6弾『テンペスト』に出演。



## 「さいたまゴールド・シアター」 「埼玉アーツシアター通信」では、 団員紹介 46名の団員すべてをご紹介します。 役者を目指し、毎日、頑張っている団員にご注目。

団員のみなさんへの質問  
1.入団の経緯、2.入団の発表公演の感想  
3.「さいたまゴールド・シアター」の魅力とは?  
4.演じたい役は?

### 中野富吉 (なかの とみよし) さん 76歳

技術系の本業を持つ一方で、長年、自立劇団で演劇活動をしてきた中野さんにとって、「さいたまゴールド・シアター」はその集大成の場だ。プロにするという主旨に賛同し、「ならばなつてみせよう」と熱い思いを語る。あえて中間発表会にはかつての劇団仲間を呼ばず、今年6月の本公演ですべてをぶつけ、見てもらうつもりだ。

- 1.残りの人生の可能性を信じて最後まで燃え立たせたい気持ちでいっぱい。それぞれの分野で経験を積んだ者が、演出家によって極致にまで変わらうとする姿を共に見届けたい。
- 2.お客さんを前にして手応えを感じた今、演ずることの喜びをさらに求めて土気も上がってきている。
- 3.蛭川さんの演出と、整った劇場設備とスタッフに支えられて、新発足した高齢化社会に将来を有望される、なお盛んな息の長い熟年パワのパフォーマンスでしよう。
- 4.どんな役にしても、しっかりとしたテーマに生きる人物を演じたい。

### 杜澤亮英 (とさわ みちえい) さん 71歳

寺の住職を務める傍ら、高校教師として演劇部を指導してきた杜澤さん。第2回中間発表会ではノロウイルスに冒されながら出演。「比較山での修行で鍛えた精神力に支えられました」。

- 1,70歳という節目を迎え、新たな意欲を燃やしてみたいと考えていた矢先、募集を知り、呼びかけの主旨に深い感銘を受けた。演劇や映画における蛭川演出に魅せられていたので、直接それに触れ、自分を試してみたいかった。
- 脚本に命を吹き込んで表現するその共同作業の素晴らしさ。小さな自分の殻がどんどん剥がされていくことの快感。蛭川さんの教育の仕方の独自性と人間性の豊かさ、精神的にも肉体的にも新しくなっていく実感。
- 蛭川さんの演出家としての、人間としての魅力。私たち集団への関心の深さと動かし、芸術劇場の市民に対する誠実さへの信頼感。
- 今までの人生から得た栄養を活かしながら、自分の力が試せる役ならどんな役でも意欲を燃やしたい。自分の中の新しい自分が発見できるような役。逆に言えばどんな役でもそうした姿勢で挑戦したい。

### 中島崇一 (なかじま せいいち) さん 76歳

芝居好きの父の影響で子供の頃からよく芝居を観ていたという中島さん。若き日の思いを胸に演劇に取り組んでいる。

- 1.募集に際し、蛭川さんは「その年齢を重ねた人々それぞれの個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に出会うことは可能ではないか?」と書いた。この言葉に強い衝撃を受け、魅せられてしまった。
- 2.中学生の頃、ある演劇に出たが、それ以後、ずっと舞台上に憧れていた。思いがけず、発表会に出られ、最高の気分であり、自分が天下を取った気持ちで実に楽しかった。演劇は一種の魔力がある。
- 3.既成劇団並に役者に対して働き足りないものがあるのではないだろうか? 「さいたまゴールド・シアター」という、いながら素人劇団に何かを求め、何かを期待し、新しい演劇の境地を切り拓いていくパイオニアのような気持ちで応援してきているのかもれない。
- 4.どんな役でもこそなる役者になりたい。高倉健のような役者を目指したい。「黙して語らず」。それだけで存在感のある役者にたまたまない魅力を感じる。

### 西尾嘉十 (にしお かじゅう) さん 71歳

第1回中間発表会の初日は緊張したが、今は観客の前で演じることを楽しむ気持ち。蛭川演出の舞台『ひばり』には13名の仲間と出演。「プロの役者やはり発音が違う!」

- 1.蛭川さんが指導されるからということにつきま、この年になって同じ志の仲間が出来、演劇が出来ると言うことは奇跡に近いありがたいこと。感謝の気持ちで一杯です。
- 2.「役者は観客の目で見つ」という言葉は正に至言でした。1回目と比べ、緊張感や台詞の覚え方、言い回しなど全く違うものになりました。「とにかく観客の前で演ずる」ことがどんな俳優術の教科書よりも数倍優れたものだと実感しました。
- 3.今までの人生を俳優として生きてこなかった私たちが、蛭川さんの演出とどれほどの舞台を創り出せるのかという関心。
- 4.俳優ですらどんな役でも全力でぶつかったり強い意志を持ちたいと思います。昔から好きだったのは宇野重吉さんです。

### 林田恵子 (はやした けいこ) さん 57歳

編集者として文字の世界の中で自分を表現してきたが、介護などの大変な時期を経て、「文字だけではなく体を使って表現したい」思いで、経験のなかった演劇の世界に足を踏み入れた。「もっと人生経験のある団員の方に比べれば私はまだまだです、そう思える場所にいることが幸せだと思います」

- 1.蛭川さんの書かれた募集の文章を読み、「これだ!」と思ったので、自分を縛るものから解放されたいという思いが、マダマのように溜まっていたのだと思います。
- 2.悩むことも多いのですが、演じることは本当に楽しい。舞台は、蛭川さん始めのスタッフの方達や団員皆で作っていくのだとわかりました。今は勉強中ですが山のようにあると感じています。
- 3.観に来てくれた友人の多くは、それぞれの人生が舞台から感じられると喜んでくれました。それがゴールド・シアターの魅力では?
- 4.これはあくまでも夢ですが、エウリビデスのメイヤ、現実的には、「いや〜な女」なんかを演じてみたいです。

### 美坂公子 (みさか きみこ) さん 61歳

亡き父を主宰していた美坂さんにとって、夫の死後、久しく遠ざかっていた舞台に立てた中間発表会は、「夫のオーマジュだ」と言う。昨年5月再び演劇に向き合ってきた。上演された清水邦夫の2本の作品は、今の自分と自分であった三十数年を問い続けるものでした。そして、それは強い美意識と強い感性の蛭川さんという存在があつて初めて成り立ち時間でした」

- 1,60歳を機に新しい環境の中で自分をみつ直すことが出来たらと入団しました。
- 2.毎日の訓練と講師の先生方からの的確なアドバイスと蛭川さんの厳しい指導で、少し自分の体や声が変わってきたのかなと思います。
- 3.新しいものに挑戦していくエネルギーが満ちていることだと思います。
- 4.まだまだ自分のことがわからないので、イメージ出来ることだと思います。

### 中村絹江 (なかむら きぬえ) さん 56歳

団員の中で、最年少の中村さん。60歳くらいまで出来たとしても挑戦したいが、自分よりずっと年上の団員が頑張っているのを見て、「とんでもない、私なんかまだ大丈夫」と驚感した。ちゃんと声を発することが今の課題。「まず声が出ないと、何も伝えられせんから!」

- 1.長年自営業の仕事に追われ、月日経ち、息子たちもそれぞれ自分の道を歩き始めるのを見ている中で、私も自分としての自己表現できるものを作りたいという強い欲求が生まれました。何かを探している、そんな時に募集の記事を見ました。
- 2.人前で声を出すことの難しさや、何にも出来ない情けない自分を見下してしまったり……。でも皆で演じることがとても楽しかったです。そして時々本番に向けて劇り上げられていプロセスがエキサイティングで、はまってしまいました。
- 3.何でしようね???
- 4.何でも演じてみたい。いろんなものに挑戦したいです。

### 百元夏繪 (ひやくもと なつえ) さん 64歳

小さい頃から習っていた日本舞踊で舞台に立つこと地よと観客との一体感を知っていた百元さんは、夫の死後押して演劇に再挑戦。

- 1,1,000人の中から私の可能性を見つけて下さった蛭川さんの目を信じて、ひたすら蛭川さんについていこうと思ってきました。新しい「時」を重ねて、今までにない自分を発見したいと思っています。
- 2.「プロセス〜途上〜」で蛭川さんに「楽をするな!」と指摘されたのですが、私は(ダンスの講師の)広崎うらんさんから教わるダンスも日舞になってしまいます。「プロセス2」では下衆な婆にしたかったのですが演じ切れず、私の最大の課題である自己改造はまだまだ続きます。でもこんなに楽しくてよいのかしらと思っています。
- 3.蛭川さんの演出の魅力はもちろんですが、私たちの年齢で新しいことに挑戦し変わらうとしている一人一人のエネルギーが舞台の上で一つになって観客席まで届いていることだと思います。
- 4.どんな役でもその芝居が成立するためには必要なので、どんな役でも大切にしたいと思っています。

### 小川夏繪 (こがわ なつえ) さん 64歳

小さい頃から習っていた日本舞踊で舞台に立つこと地よと観客との一体感を知っていた百元さんは、夫の死後押して演劇に再挑戦。

- 1,1,000人の中から私の可能性を見つけて下さった蛭川さんの目を信じて、ひたすら蛭川さんについていこうと思ってきました。新しい「時」を重ねて、今までにない自分を発見したいと思っています。
- 2.「プロセス〜途上〜」で蛭川さんに「楽をするな!」と指摘されたのですが、私は(ダンスの講師の)広崎うらんさんから教わるダンスも日舞になってしまいます。「プロセス2」では下衆な婆にしたかったのですが演じ切れず、私の最大の課題である自己改造はまだまだ続きます。でもこんなに楽しくてよいのかしらと思っています。
- 3.蛭川さんの演出の魅力はもちろんですが、私たちの年齢で新しいことに挑戦し変わらうとしている一人一人のエネルギーが舞台の上で一つになって観客席まで届いていることだと思います。
- 4.どんな役でもその芝居が成立するためには必要なので、どんな役でも大切にしたいと思っています。



# Piano Étoile Series

Rafal Blechacz

Ilya Rashkovskiy

David Greilsammer

Yu Kosuge



## CONTENTS

02 NINAGAWA 千の目  
宮本亜門×蛭川幸雄

06 PICK UP  
彩の国シェイクスピア・シリーズ第17弾  
「恋の骨折り損」

08 PICK UP 「エレンディラ」

10 PICK UP ヤン・ロワース&ニードカンパニー  
「イザベラの部屋」

11 PICK UP サシャ・ヴァルツ&ゲスツ  
「Körper ケルバー (身体)」

12 talk・talk・talk 森山開次

13 PICK UP コンドルズ

14 PICK UP ピアノ・エトワール・シリーズ

16 PICK UP  
ニューヨーク・フィル・ブラス・クインテット

17 PICK UP  
宮本益光  
白井光子&ハルトムート・ヘル

18 COMMUNICATION

19 EVENT INFORMATION

20 EVENT CALENDAR

22 さいたまゴールド・シアター本公演